

○幼児保育施設と小學校

南山小學校 小林 操

小林氏「幼児保育施設」といえば、幼稚園と保育所が考えられるがそこで保育を受けた子供が、小學校に入学して、どんな風に取り扱われているか、その連絡の必要性については今更言うまでもないが、実際問題としては、今日の現状ではこの問題はうまくいっていないのであります。

○うまくいっていないのはなぜか
○うまくいさせるにはどうするか

こゝにお互いの研究するねらいがあると思います。わたくしは時間の関係で次の三問題と、わたくしの学校の様子を簡単に述べて皆さんからの御意見を伺いたいと思います。

一、保育計画（カリキュラム）の問題

就学前の一年と小學校の一、二年とを通して考え、そこに一貫したカリキュラムを編成することは、兩者の連繋の基本をなすものと思います。併設園でもこれが実施は中々困難でありますから、独立園では更に六ヶ敷いと思います。そこで実際家は小學校一、二年のカリキュラムを十分に研究して計画を立てる必要がありません。計画の上での連繋がなかつたらすべての面の連絡が失われてしまうことになりす。

二、小學校・幼稚園教諭の教育全般に関する相互理解の問題

小學校低学年の先生が、幼児保育の計画、実際について十分の理解

をもつてもらうことも当然ですが、一方保育の実際家も小學校一二年の学習指導の実際を見て、現在以上の理解をもつことが必要であります。その上でよく話し合いの機会をもつて幼、一、二年を常にかたまりとして考えていくことが大切だと思います。東京都幼年教育研究会はこの点をねらつての会ですが、なかなか十分の活動をしております。

三、教員養成と教員の身分の問題

教員養成機関においては幼稚園の免許状と小學校の免許状とが与えられるようになったが（三月三十一日の免許法改正で）、幼稚園の教諭の身分の点から、切角併設園であつても幼稚園と小學校の人事の交流（もち上り式）のことができないのですが、これがスムーズにできるようになれば自然連絡がとれると思います。

四、本校の小學校・幼稚園の連絡に関する経験

学級編成の考慮と研究

幼、一年の教員の連絡研究会

学校行事と幼稚園行事の一体化

右の経験をもつているが時間の都合で詳しいことは省略いたします。

○保育施設と家庭と學校

愛育研究所 平井 信義

平井氏「私の申上げることゝ両先生のおつしやつたことと大同小異でございます。私は保育所・幼稚園・學校・家庭のこの四つを合せて一つの図型を考へてみました。